

# 技術常識を味方につける！進歩性判断のロジックと明細書ドラフティング指針

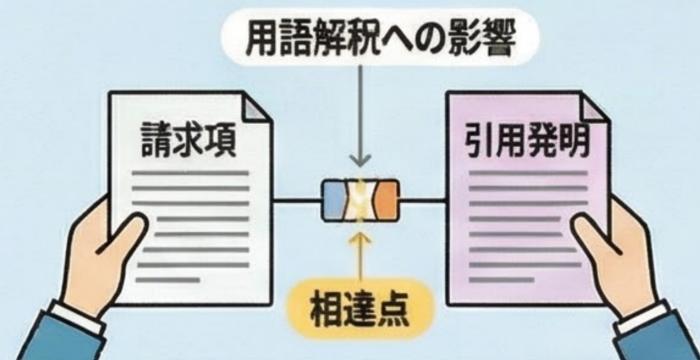
 知的財産高等裁判所の傾向：技術常識（CGK）が「敵」にも「味方」にもなり得る。

 目的：進歩性判断のロジックを理解し、拒絶・無効リスクを回避する明細書作成戦略。

## 技術常識が作用する進歩性判断のフロー

### STAGE 1

#### 1. 請求項・引用発明と相達点の認定



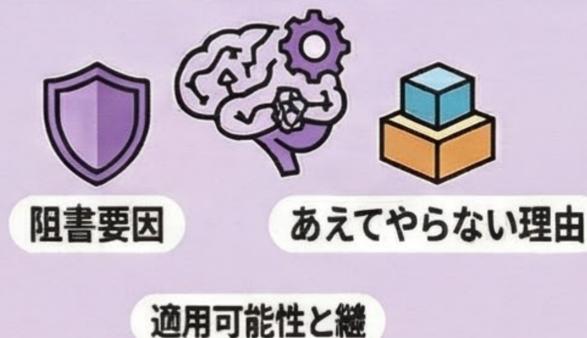
### STAGE 2

#### 2. 技術常識等の把握（周知技術・設計事項）



### STAGE 3

#### 3. 論理付けと阻害要因の検討



### STAGE 4

#### 4. 効果の評価と結論

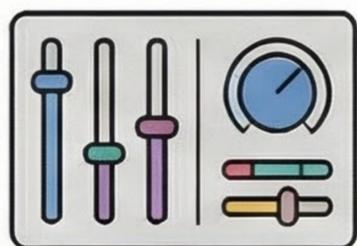


## 事例から学ぶ「設計事項」の壁

### PANEL 1

#### 数値限定・最適化のリスク

事例①④



数値の増減 最適化

単なる変更は「設計事項」と見なされ進歩性否定

### PANEL 2

#### 課題の上位概念化

事例②



引用例との共通性認定、結合の動機付けに利用される恐れ

### PANEL 3

#### 規格・社会的要請の影響

事例②⑤



技術の組み合わせの強力な動機付けとして採用されるケース増加

## リスク回避のためのドラフティング指針

### TOOL 1

#### 請求項：多層的な防御構造



### TOOL 3

#### 効果：因果関係の類を明示



### TOOL 2

#### 実施例：事実の杭を打つ



### TOOL 4

#### 阻害要因：設計意図の先回り



## 出願前最終チェックリスト

### CHECK 1

- 課題は「技術的制約」まで書いたか？
  - 技術的制約
  - ボトルネック、制約（安全、コスト、維持）を特定

### CHECK 2

- 相反関係（トレードオフ）を説明したか？
  - 相反関係
  - 「Aを立てればBが立たず」を解決した構造を明確にする

### CHECK 3

- 用語の定義と評価基準は明確か？
  - 明確な定義と基準
  - 発散な話に対し、認例可能な寸法や測定方法を明記